

社会科教育研究部

主任 今 伸仁・櫻庭 卓也・佐藤 一幸

研究計画

目指す子供の姿

問題意識をもって学びの流れを構想し、獲得した情報をもとにして社会的事象を多角的に考え、表現する子

社会科における自ら考え、自律的に行動する子供の姿を「問題意識をもって学習の流れを構想し、獲得した情報をもとにして社会的事象を多角的に考え、表現する子」と設定し、研究に当たる。

1 目指す子供の姿について

(1) 具体として

「問題意識をもって学びの流れを構想する」とは、子供の日常生活の中にあるものを社会的事象ととらえたときに生じる驚きや疑問から単元の学習問題設定し、調査や表現の方法の見通しをもつことである。一単位時間の見通しだけでなく、小単元全体の見通しをもつことにより、子供の主体的な問題解決につながる。

「獲得した情報をもとに」とは、社会科の学習においては、統計的資料・年表・写真・映像等の諸資料、インタビュー等の活動から獲得される情報を思考・判断・表現の材料とすることである。それらをもとにすることで、自分の考えの根拠が明らかになり、他者にも伝わる表現となる。

「社会的事象を多角的に考え」とは、社会的事象に内包している、様々な立場の人から考えることである。具体的な立場を通して考えることで、その社会的事象のメリットやデメリットを捉えやすくなる。小学校段階で多角的に考えることが中学校社会での多角的・多面的に考えることにつながる。

「表現する」とは、ノートに書くことや模造紙等にまとめることだけでなく、話し合ったり、劇化したりする等多様な方法が考えられる。その多様な表現方法の中から、自分の考えを表現する活動の中で自分の考えを伝える相手に合わせて、自分の考えを伝える方法を選択したり、自分の考えによって、表現方法を選択したりする。そして、自分の考えを表現する活動を他者の評価等を参考にして振り返ることで、自分のそれまでの学びを振り返り、何を学んだのか、またこれからどのように学習を展開するか学びの流れを修正することにつながる。

2 研究内容について

目指す子供の姿に迫るために、本年度は研究内容として以下の二点に取り組む。

(1) 獲得した情報をもとに、自分の考えを他者に伝える活動の在り方

自分の考えを他者に伝えるためには、効果的な表現方法を選択することが重要になってくる。そのために表現方法の選択の幅を広げることが大切である。子供が他者への様々な表現活動や表現活動の中で相互のやりとりをすることが果的な表現方法を考えることにつながると考える。

(2) 考えを伝える活動を振り返り、学びの流れを修正する場の設定。

多様な表現方法の中から、どんな方法を選択したことが他者に考えを伝えるために効果的だったのかを振り返ることで、表現方法の効果を実感していく。それと同時に、活動を振り返ることで自分の学びの流れを振りかえり、問題解決のために学びの流れをどのように修正すべきか明確になると考える。

3 研究方法について

(1) ノートに書かせる振り返りを分析して、個の変容を調査する。

(2) アンケートを分析して全体の変容を調査する。

(今 伸仁)

本単元で目指す授業

百沢土石流災害を扱い、調査して獲得した情報を基に考えたことを表現し合うことで、学びの流れをつくる授業

Ⅰ 単元名 「津軽で生きる～自然災害からくらしを守るために～」

Ⅱ 目指す子供の姿に向けて

本単元で目指す子供の姿

聞き取り調査等で獲得した情報を基に自分の考えを表現することで、土石流災害がその時の住民の想いやその後の生活に与える影響を捉える。さらに、自他の考えを比較・整理することで学びの流れを構想し、市や県等の関係機関が協力して自然災害に対して備えることだけでなく、実感をもって自分自身ができる備えを選択・判断する姿。

単元の主な手だて

○調べたい観点に合わせた表現する活動の場の設定

○表現活動を振り返り、次の見通しをもつための話し合い

単元について

百沢土石流災害とは、昭和50年8月6日の未明に、前日からの雷雨を伴う集中豪雨により、岩木山南麓一帯で発生した大規模な土石流のうち、蔵助沢で発生した土石流が百沢地区を襲ったものである。家屋7棟を押し流し、22人が亡くなる大惨事である。

近年、短時間豪雨等による災害が発生しており、今年7月3日には静岡県熱海市でも大規模な土砂崩れが発生していることから、本単元において弘前市で起こった百沢土石流災害を扱うことで自然災害に対する関心を高め追究意欲が高まると考える。なお、本単元で弘前市や青森県等の関係機関が協力して自然災害に備えていることを捉えることが6年生での我が国の政治の働きにつながる。また、岩木山や百沢の自然関係と土石流の発生を関連付けて捉えることが5年生での我が国の国土の自然環境と国民生活との関連につながると考える。

単元で育みたい資質・能力

○獲得した情報を基に、自分の考えを形成すること。

○自他の考えを関連させて、自分の考えをより明確にすること。

○それぞれの立場から考えたことを関連付けること。

主に働かせる見方・考え方
弘前市で起こった自然災害について、その地形や気候、時間の変化、住民の願い、関係機関との協力の視点から捉え、相互の事柄を関連させて考えること。

子供の実態

- ・積極的に自分の考えを表そうとしないが、既習や生活経験等と関連させて社会的事象に対する考えをノートに記述する子は多い。
- ・資料から情報を読み取ることについての差が見られる。また、情報を読み取ってもその情報を関連させて発言できる子は少ない。
- ・他地域での大きな被害を与えた地震や津波は想起できるが、弘前で起きた災害となると想起できる子は少ない。

Ⅲ 単元について

1 単元の目標

自然災害から人々を守る活動について、具体的に岩木山百沢土石流災害を取り上げ、その地形や気候、時間の変化、住民の願い、関係機関の協力に着目して、聞き取り調査をしたり、地図などの資料で調べたりして、岩木山百沢土石流災害の被害や原因を捉え、被害を受けた方の願いを表現する活動を通して、災害の悲惨さに気付き地域の人々のくらしを守るための様々な人たちの取組を理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を解決し、学習したことを地域社会に生かそうとする態度や地域社会の一員としての自覚を養う。

2 単元の評価規準

知識・理解	思考・判断・表現	主体的に学びに向かう態度
・地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解している。 ・聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりして、まとめている。	・過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、災害から人々を守る活動を捉え、その働きを考え、表現している。	・自然災害から人々を守る活動について、主体的に問題解決しようとしたり、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしたりしている。

3 単元の展開（全 10 時間）

	学 習 活 動・予想される児童の発言・思考	・働きかけ 手だて ◎評価※資料
一 次 ①	（動機付け） ○青森県内ではどんな災害がおこったのか調べる。 ・夏休み中に下北の方でたくさん雨が降っていて、橋が壊れたり、道路が通行止めになったりしていた。 ・10年前には大きな地震があつて、その後の津波で大きな船が流されたり、停電になったりした。 ・急に強い雨が降ることは弘前市でもあるけど、弘前市では大きな災害は起きていないのかな。 弘前市ではどのような災害があつたのだろう。 （方向付け） ○どんな災害があつたのか予想する。 ・冬になると雪がたくさん降ることだと思います。 ・日本のいろんなところで地震が起きているから、弘前市でも地震があると思う。 ・岩木山は火山だと聞いたので、噴火があつたと思います。 ○どうやったら調べることができるか解決の見通しをもつ。 ・家の人に聞いてくる。 ・くわしい人に聞いてみる。	・働きかけ手だて◎評価※資料 ※下北地方の被害を伝える新聞記事 ※東日本大震災を伝える新聞記事 ・近年の県内各地で災害が起こったことを取り上げ、地図上で確認していくことで、弘前を中心とした津軽地方での災害が起こっていないのか考え、問題の設定につなげる。 ・大まかに災害毎に分類していく。 ◎ノート記述から、何をどのように調べればいいのか学習の見通しをもっているかを評価する。

	・市役所や県庁の人に聞いてみる。 (情報収集) ② ○市役所の方に聞き取り調査を行い、情報をもとに年表にまとめる。 ・弘前市でも、東日本大震災の時に停電があったり、流通がストップして物が買えなかったりして生活に影響があった。 ・台風でりんごがたくさん落ちて、処分することになってた皆さんの生産者が困った。 ・雨がたくさん降って、岩木川が洪水が起きたり、土石流が起きたりして、そこに住んでいる人が亡くなったこともあった。 ③ (考察・構想) ○今までに集めた情報を基に、弘前市で起こった災害の概要をまとめ、どの災害が一番大きな影響を与えたのか話し合う。 ・弘前市の主要産業であるりんご栽培に大きな影響を与えているから 1991 年の台風 19 号だ。 ・たくさんの人が亡くなっているのだから、岩木山百沢土石流災害だ。 (まとめ・方向付け) ○たくさんの友達の考えを聞いて、自分の最終判断を書きそれらを出し合い、学習の方向性を決める。	(主体的に学習に取り組む態度) ※弘前市地域防災計画内災害の記録 ・上記の資料で補足し、災害の大まかな被害等をつかませる。 ・どの災害を調べるか選ぶだけでなく、理由も話させることでどの情報を根拠にして判断したのか明確にする。 ◎発言やノート記述から、弘前市で起こった災害比較し自分なりの根拠を持って考えているか評価する。(思考・判断・表現)
二 次 ④ ⑤ ⑥ ⑦	(方向付け・情報収集) ○前時の話し合いをもとに学習問題をつくる。 岩木山百沢土石流災害では、大きな被害を出た理由を考えよう。 ○岩木山百沢土石流災害について皆さんの被害の原因を知るために、どんな情報が必要か考え、調査する。 ・どうやって土石流が起こったのか知りたい。 ・斜面にも被害を大きくする特徴はなかったのかな。 ・その時、百沢集落に住んでいた人はどう思っていたのかな。 (構想・考察) ○獲得した情報を基どうして大きな被害が出たのかを考え発表する。 (まとめ) ○それぞれのグループ毎の発表を聞いて、獲得した情報を関連させたり、総合したりして考える	※蔵助沢の地図 ※昭和 50 年 8 月 6 日の天気に関する文章資料 ※遺族会会長のインタビュー動画 調べたい観点に合わせた表現活動の場の設定 ◎ノート 記述から、岩木山百沢土石流災害が大きい理由を複数の情報を関連付けて考え表現しているか評価

	岩木山百沢土石流災害で大きな被害被害が出たかという、想定よりもたくさんの雨が降ったため、早いスピードで土石流が下りてきて、さらに早朝の早い時間と ○岩木山百沢土石流災害の学習を振り返り、さらに学習したいことを考える。 こんなに被害の大きい災害が弘前市や岩木山で起こっているなんて知らなかった。葛西さんのお話を聞いて、災害に備えることの大切さを感じた。このような被害が出ないようにするためにどんなことをしているのか知りたい。	する。（思考・判断・表現） 表現活動を振り返り、次の見通しをもつための話し合い ◎ノート記述から、自分なりの根拠を明らかにして、学習の見通しをもっているか評価する。（主体的に学習に取り組む態度）
三 次 ⑧	（方向付け） ○前時の話し合いをもとに学習問題をつくる。 土石流災害に対して、青森県としてどのような対策をしているのだろう。 （情報収集・まとめ） ○県土整備部の方に聞き取り調査を行い、獲得した情報を基に青森県としての対策を整理する。 青森県では、上流に砂防ダムを造って災害に備えている、さらに災害時には、気象状況等の情報を弘前市やと共有したりして、災害に備えている。	
⑨	（構想・考察・方向付け） ○県の取組だけで災害に備えられるか考える。 - 川の上流に砂防ダムがあって、蓄えられるから大丈夫。 〇〇年に一度の大雨って最近多いから、そうなった時に近所の人とすぐ対応できるようにしておく必要あると思うよ。	◎ノート記述から、県の取組について理解しているかを評価する。（知識・技能）
⑩	（方向付け・情報収集） 土石流災害に対して、地域の住民が備えられることはどんなことだろう。 ○市役所の方からいただいた資料をもとに、地域の住民が自分の地域の災害に備えるためにどんなことができるか調べる。 住民がその地域のために自主防災組織をつくる必要がある。そのために弘前市は町会に対して支援をしている。 （考察・構想） ○これまでの学習を振り返り、自分たちにできることは何か考える。 災害は自分にとって近いものだと感じていなかったけど、起こってしまうと大きな被害が出ることが分かった。災害が起きそうときには天気予報を確認して、自分の身は自分で守れるようにしたい。	◎ノート記述から市の取組について理解しているかを評価する。（知識・技能） ◎ノート記述から、自分のできるところ今までの学習を生かして理由を明らかにして説明しているか評価する。（思考・判断・表現）